

## はしがき

本書『[一目でわかる] 中国進出企業地図 2015～2016年版』\*は中国に進出している日本企業の最新動向をガイドしたビジュアルブックである。

旧版の[2012～2013年版]を刊行して以後、日中関係は「政冷経冷」の状態に陥り、日本の対中投資は停滞状態にある。しかし、この間に中国経済は外需依存から内需依存に舵が切れ、中国市場は量的・質的に一段とグレードアップしつつある。この千載一遇のチャンスに欧米韓台をはじめとする外資企業は果敢にチャレンジしているが、日本企業は遅れをとって中国市場の変化についていけないのではないかと。[2015～2016年版]の企画構想の動機はここにあり、旧版を根底から書き改めることになった。

[2015～2016年版]は、「序章 転型期における対中ビジネス」、「終章 中国撤退企業一覧 2010-2014年」を除き3部構成とした。

### 第1部 中国における外資企業ブランド戦略

ここでは、中国マーケットの実状を一望のもとに把握するために、180品目近くの国産ブランド価値・外国ブランド価値の実力と、その優劣（ランキング）を総合的に検証した調査報告書を紹介した。

### 第2部 モータリゼーションのビジネス・トレンド

ここでは、クルマ社会に突入した中国市場に殺到する外資自動車メーカーの動態を追うとともに、中国産業のリーディングセクターとなった自動車産業を頂点にして広がる裾野産業（部品産業、素材産業）における中国事業を追究した。

### 第3部 都市化の時代のビジネス・トレンド

ここは、3パート構成となっている。（1）日本小売業の対中ビジネス。（2）日本7大総合商社の対中最先端ビジネス。（3）都市化の時代の有望ビジネス。

このうち最も力を入れたのは（3）の有望ビジネスで、以下の結論に達した。

①訪日観光客ニーズ、②アグリビジネス、③製パン、④乳酸菌飲料、⑤西洋調味料、⑥ベビー用品、⑦高齢者介護サービス、⑧不織布、⑨化粧品、⑩ウェディング・サービス、⑪PM2.5対策、⑫エアコン、⑬産業用ロボット、⑭昇降機、⑮建設機械、⑯住宅設備、⑰不動産開発、⑱宅配便、⑲資源リサイクル、⑳水処理、㉑スマートシティ。

21世紀中国総研は、本書に先立ち、以下の書籍を編集している。

『中国進出企業一覧 上場会社篇 [2013～2014年版]』（日本の上場企業の在拠点数 7783、うち現地法人 7313社を収録している）

『中国進出企業一覧 北京・上海篇 [2013年版]』（上場・非上場を問わず日本の在上海・北京の現地法人 5493社、代表処 796社を集めている）

本書とともにご利用いただければ幸いである。

本書のデータは、主に中国に進出している日本企業各社および現地法人がリリースしている各種資料に依拠している。いちいち出所は記していないが、中国進出情報をリリースされ、取材にご協力いただいた各企業の担当部署、関係諸氏に厚く御礼申し上げます。仮に本書の記述に間違いがあれば、われわれの責任であり、忌憚の無い叱正をお待ちしたい。

本書の執筆は、21世紀中国総研究員の姜成山と事務局長の私が携わった。姜成山研究員が担当したのは「第1部 中国における外資企業ブランド戦略」と第3部の「(3) 都市化の時代の有望ビジネス」である。本書が稲垣清の一連の旧労作『中国進出企業地図』になお多くを依存していることもお断りしておかねばならない。

最後に、本書の編集に参加した21世紀中国総研事務局のスタッフを紹介しておきたい。

田中典子、阿部眞紀子、中村知子、村井弘明、孫丹桜。

2015年1月30日

21世紀中国総研事務局長 中村公省

\*『一目でわかる 中国進出企業地図』の旧版は「2012～2013年版」と「2010年版」を出している。それ以前は『中国進出企業地図』（稲垣清著）というタイトルで2002年、2004年、2006年に刊行している。即ち、『一目でわかる 中国進出企業地図 2015～2016年版』は蒼蒼社刊行6度目の『中国進出企業地図』である。